

1月26日(日)、町中央公民館において「大崎町人権フェスタ2024」が開催されました。

開会行事では、町内小学5・6年生から募集した人権作文と、中学生から募集した人権標語の最優秀賞受賞者に対して表彰がおこなわれました。人権作文の部で表彰された中沖小学校5年加藤美結さんと、野方小学校6年玉川心美さんが受賞作品を朗読し、作文の素晴らしい内容と、自分の意見を堂々と朗読する姿に、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

また、腰塚勇人さんを講師に招き「命の授業」ドリー夢メーカーと今を生きる」と題した講演がおこなわれました。重大事故をきっかけに、全身まひの体になり懸命のリハビリにより社会復帰できるまでに回復し、ご自身の経験とともに命の大切さ、生きることの素晴らしさなどをテレビや著書、命の授業などの講演を通じて伝えていきます。

人権フェスタについては、来年以降も開催していく予定です。身近にある人権問題について一緒に考えてみませんか。

「投稿・拡散する前に  
未来の自分を考えて」

大崎中学校 一年



## 人権作文

最優秀賞  
(二点)

### わたしの家族

中沖小学校 五年

加藤 美結

わたしが「ふくし」という言葉を知って思いうかぶのは、お年寄り、障害を持っている人、そして、にんぷさんなどのことです。

昨年の九月、わたしに妹が産まれました。母が、お腹の中で十月十日、大事に育てた期間、わたしも様々なことを学びました。

まず学んだことは、気持ち悪く思うように仕事や家事ができなくなる人がいることです。幸い母は、気持ちが悪い期間は少しの間ですみ、仕事も普通にできていました。でも、「ねむいな、少しねかせてね。」とは、よく言っていました。

日に日にお腹がどんどん大きくなっていくのを、ずっと見ていて感じました。ある日、お腹に手を当てると、「ポヨン」とお腹が動きました。わたしがびっくりしていると、

「お腹の中で赤ちゃんが動いて

いるんだよ。美結と早く遊びたいんだろうね。」と、言われました。動いているのを感じ取ることができて、わたしも早く遊びたいと思いました。

ある日、母がくつ下をはきにくそうにしていました。何でだろうと見てみると、お腹が大きくなっているからだということが分かりました。わたしは、どんな気分なんだろうと思ひ、ボールをお腹に入れたまねしてみました。すると、くつ下をはきにくいだけでなく、下が見えないから階段をおりるのもこわいなと思いました。もし転んだりしたら、母も危険だとお腹の中の赤ちゃんも危険な状態になるかもしれない。そう考えると、こわくなって、母の手助けをしないで、と思いました。

まだコロナの感染が多くて、父しかぶんべんに立ち会えず、面会もわたしたち姉弟はできませんでした。父も、産まれた後の面会では、だっこはできなかったと言っていました。わたしは、写真とムービーでしか見ることができなくて、本当に産まれたのかなと実感がわきませんでした。退院してき

て初めて妹をだっこしたとき、小さかったけどすごく重かったです。今は、もう十ヶ月なので、産まれたことよりもっとずっと重いです。赤ちゃんが産まれる前より、母も大変そうです。わたしは、わたしができる赤ちゃんのお世話をたくさんしています。泣いたらだっこして、ねかせることもできます。母は、「いつもありがとう。すごく助かる。」

と言ってくれました。

世の中には、子どもがいる人、そしてにんぷさんが数えきれないほどいます。困っているにんぷさんがいたら、手助けしたいと思います。妹のお世話で少し学んだことを、将来たくさん活用していきたいです。一人一人が思いやりの気持ちをもち、助け合い、元気な赤ちゃんがいっぱい産まれて、すくすく成長する世の中になってほしいなと思います。まずは、わたしたち家族が楽しく、ニコニコできるようにしたいと思っています。

